

行政懇談会の報告について

答 広報等でお知らせする



小林 健志

**問** 平成20年9月～10月に宍粟市行政懇談会が行われ、地域からの課題、特に道路についての意見が多く出されています。その他の課題（城下地区HBIの件）についても宍粟市民全体に分かりやすい答弁で報告するべきですが、市長の考えを問います。

市長

国県道に関してはあらゆる機会をもって要望・確認等を行っていますが、財政的な問題もあり全てにえられる状況でない等の回答が繰り返されています。宍粟市は道路が生命線なのでそれでは困ると何度も要望しているが満足する回答はいただけていません。田井・中広瀬線については用地の確保が困難であったが、今は合併支援道路として本格的な取り組みをいただけています。また、市道やその他の課題につきま

ては、市の厳しい財政事情からその要望に十分お応えできなかったことが、分かりにくく、納得のいかない内容になったと推測しています。今後の対応を含め、全17会場の懇談会が出た意見・要望を整理したうえ、年明けには連合自治会に報告し、市民の皆様には可能な限り広報等によりお知らせします。

福祉部長

城下地区HBI

の異臭の件については、現場確認を行い企業も対策（専用電話設置等）をすると回答。苦情のないよう指導していきます。

問 将来を見つめ、豊かな人づくりを

答 次世代を担う人づくりを



北川 清司

**問** 教育改革が進む中、改正教育基本法には地方公共団体の義務として、教育施策の策定が明記されている。児童生徒の減少により、学校運営・教育活動を困難にしている。この改革と共に学力向上をめざし、地域の実情や将来を見据えた学校規模の適正化への検討が必要と考えるが。

市長

現在、6小学校で複式学級を編成しており、昨年実施した意識調査では150人以上の学校規模が求められている。学校再編に向け、宍粟市学校規模適正化推進計画を早期に策定し、この計画のもとに、校区再編や枠組み、通学方法など諸条件整備を含め保護者や地域の理解のもとに推進していく。

問

小中一貫教育については、時代の潮流と教育改革・子ども自身の発育と、現行の学校制度・小学校から中学校へ、子どもの成長は連続している。義務教育の9年間の指導の内容と指導方法に、一貫性・連続性をもち学習効果を高めるのが狙

い。

教育長

現在、4中学校区、山崎南中（人権学習）・一宮北中（総合）・波賀中（英語）・千種中をモデル校として実験研修を進めている。教育10年構想のもとに検証、基礎的な調査をしていく。

問

山崎～新宮間にトンネル構想がある。たつの市、宍粟市ほかで組織する道路協議会で要望活動を続けている。県は、道路整備10カ年プログラムを組んでいる。この計画に乗せ、早期の着手を目指すべきだ。

市長

促進協議会において、別枠での要望をしています。計画を定義しているが、今回のプログラムへの計上は至難な状況にあるが、今後とも要望は継続していく。



工事中の田井中広瀬線



中学校の授業風景（山崎東中学校）